

丸の内消防署管内 火災の状況



令和7年中における 東京消防庁と丸の内消防署の火災件数

<東京消防庁管内>

5,276件（前年と比べ758件増加） 1日当たり**14.5**件

火災による死者は**91**人（自殺を除く）、傷者は**927**人

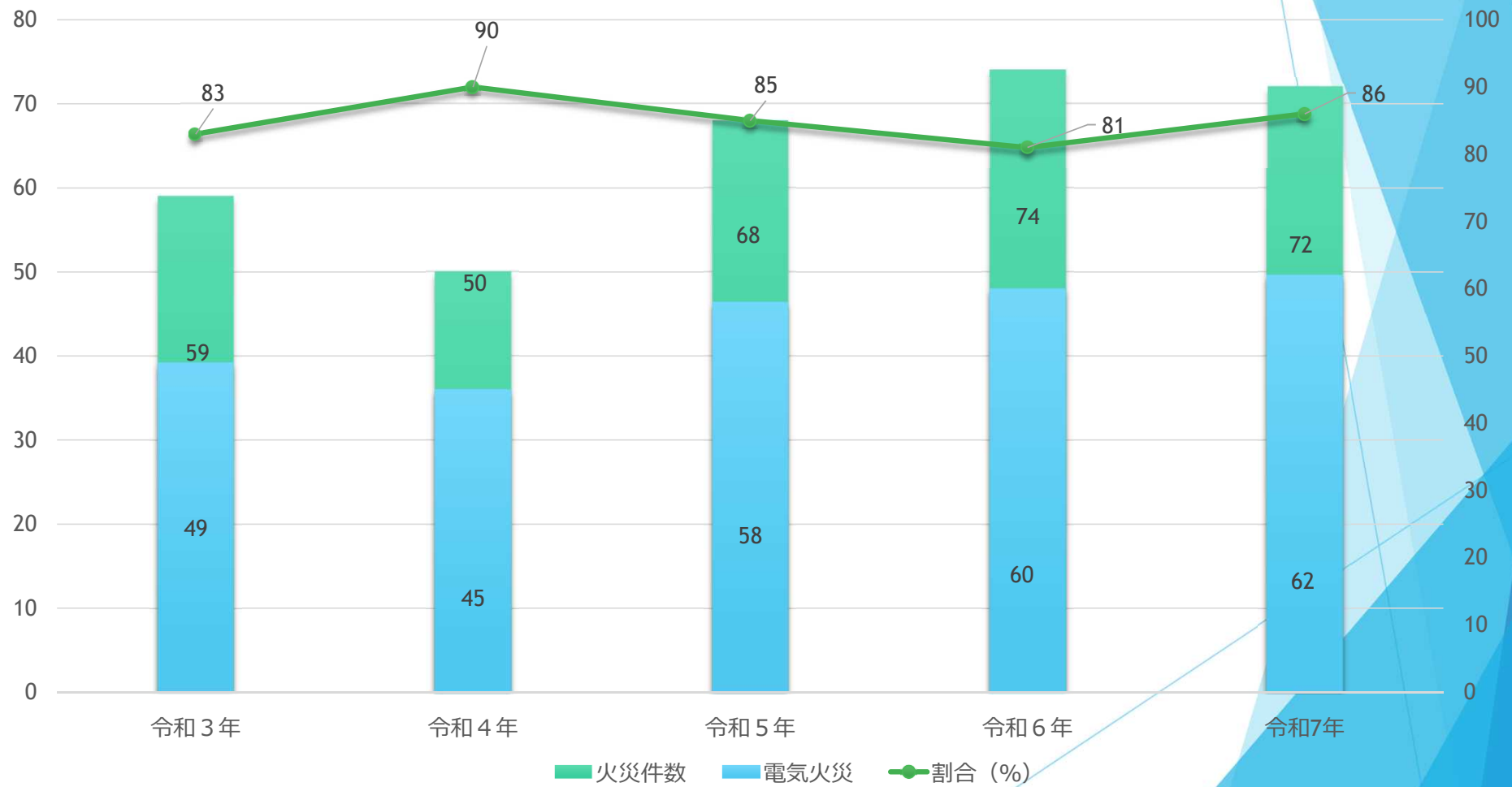
<丸の内消防署管内>

72件（前年と比べ2件減少）

火災による死者は**0**人、傷者は**2**人

6月10日時点、火災による死者ゼロ **19255** 日

丸の内消防署管内の火災件数



令和7年中の火災原因



①電気設備 62件

②ガス設備 4件

③自然発火 2件

【電気火災原因内訳】

①差込みプラグ 11件

②充電式電池 6件

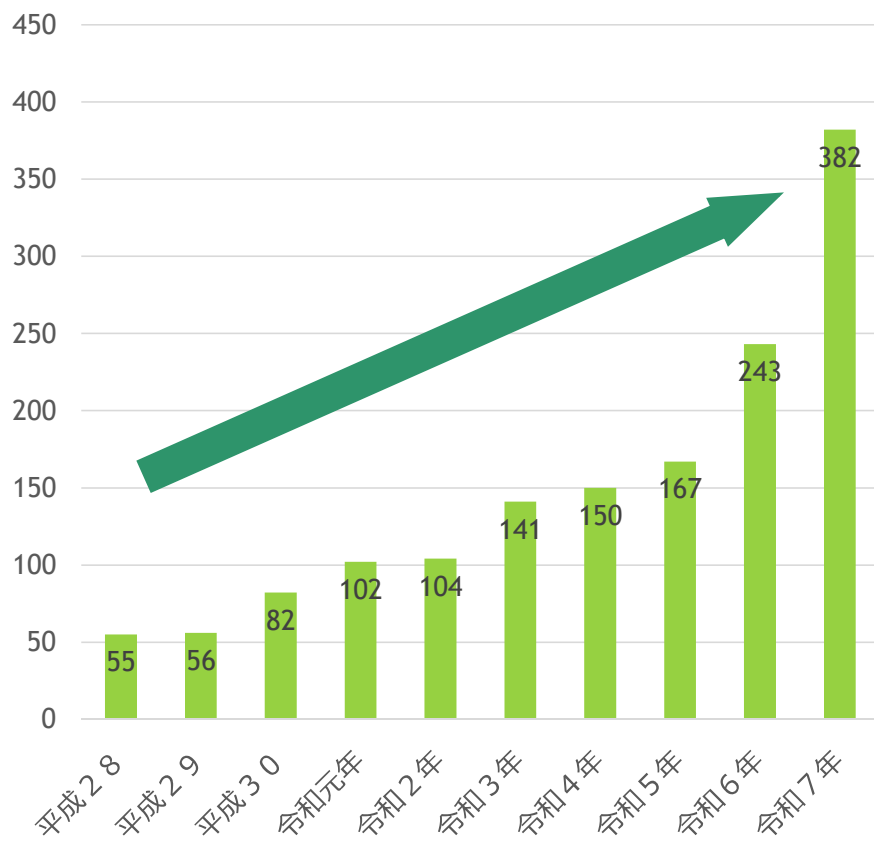
③コンセント 5件

④テーブルタップ 4件

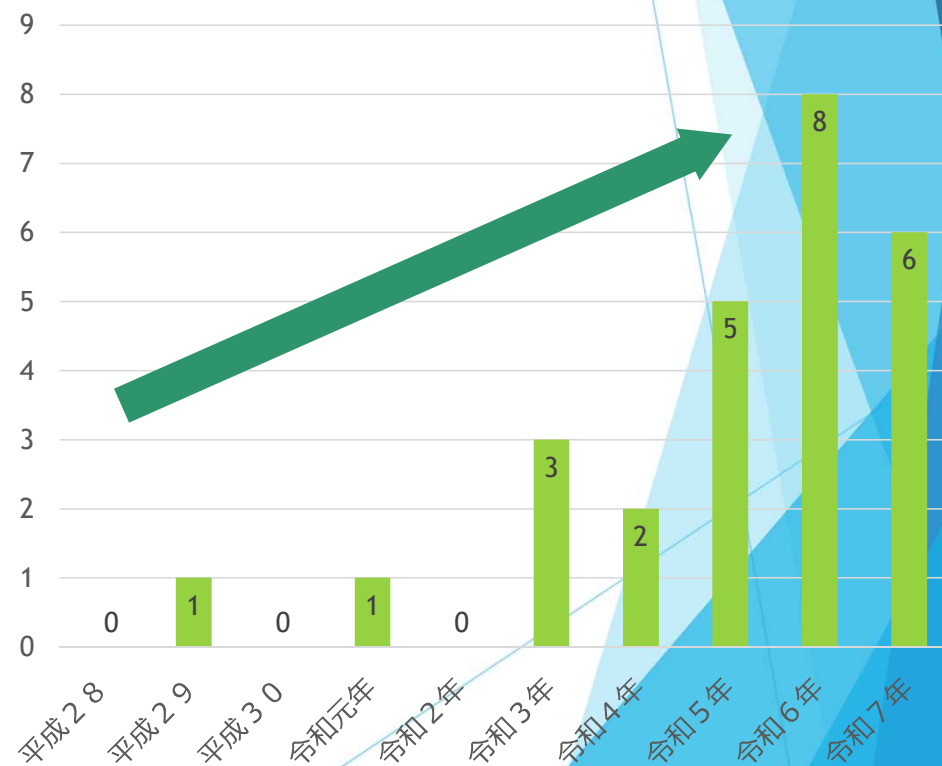
⑤コード 3件

リチウムイオン電池に起因する火災の推移

全庁



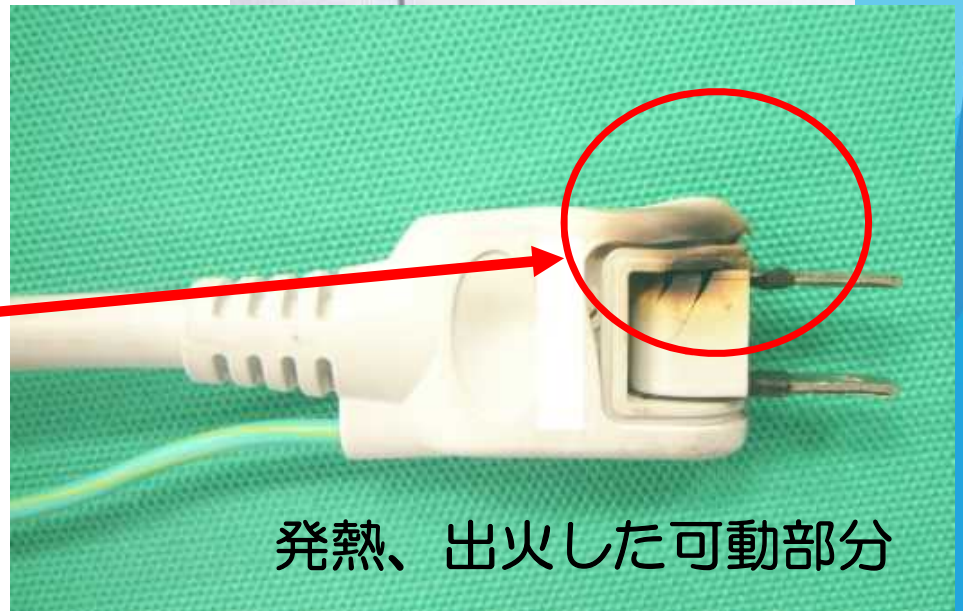
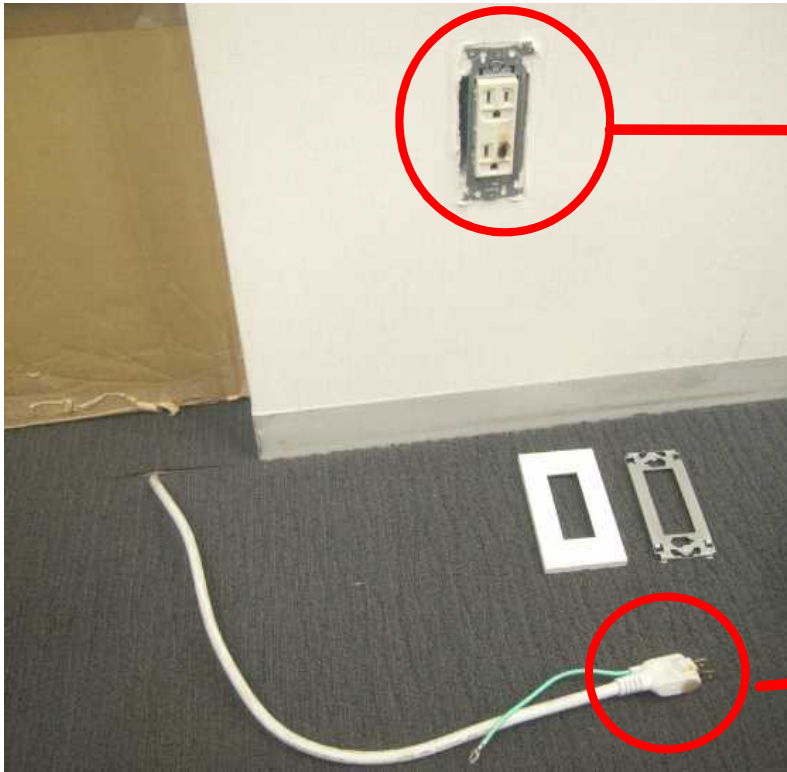
丸の内消防署





「火災事例」

プラグから出火した事例

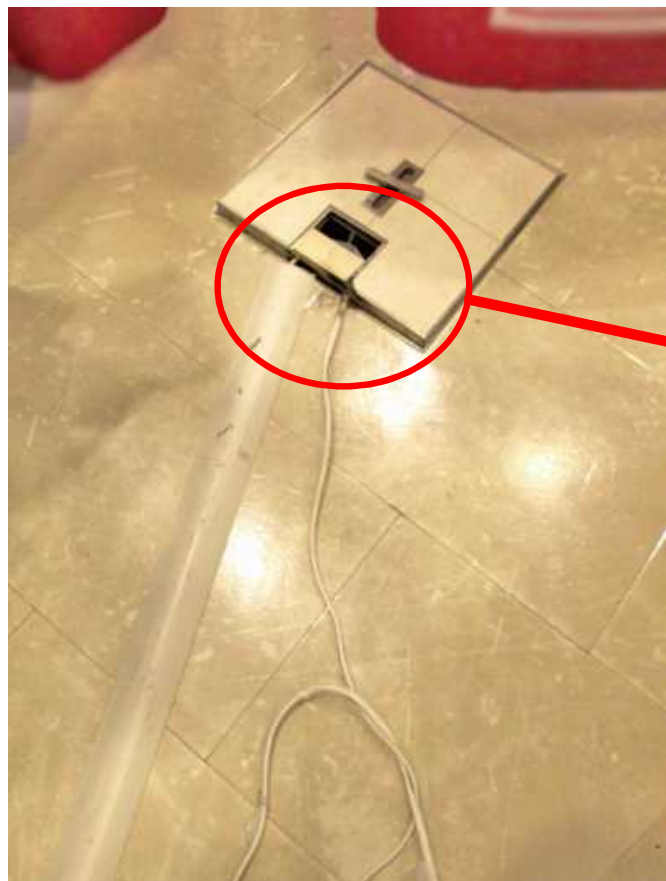


ハサミを挟み込んで出火した事例



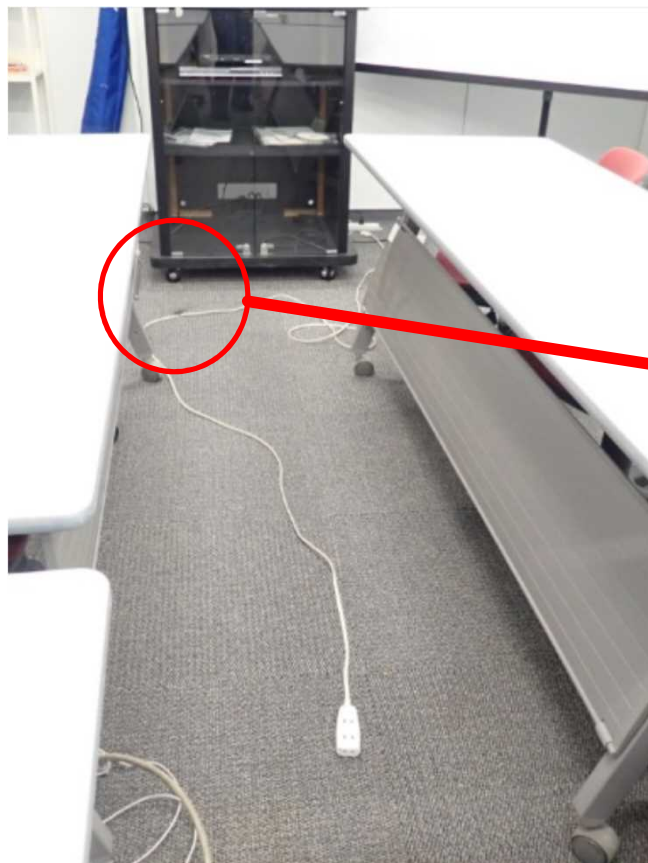
差込みプラグとテーブルタップの間にハサミを入れて、無理矢理外そうとし、ショートした火災

フロアコンセントの蓋にコードを挟み込み出火した事例



電線を損傷、ショートし出火

延長コードを踏みつけ断線し出火した事例



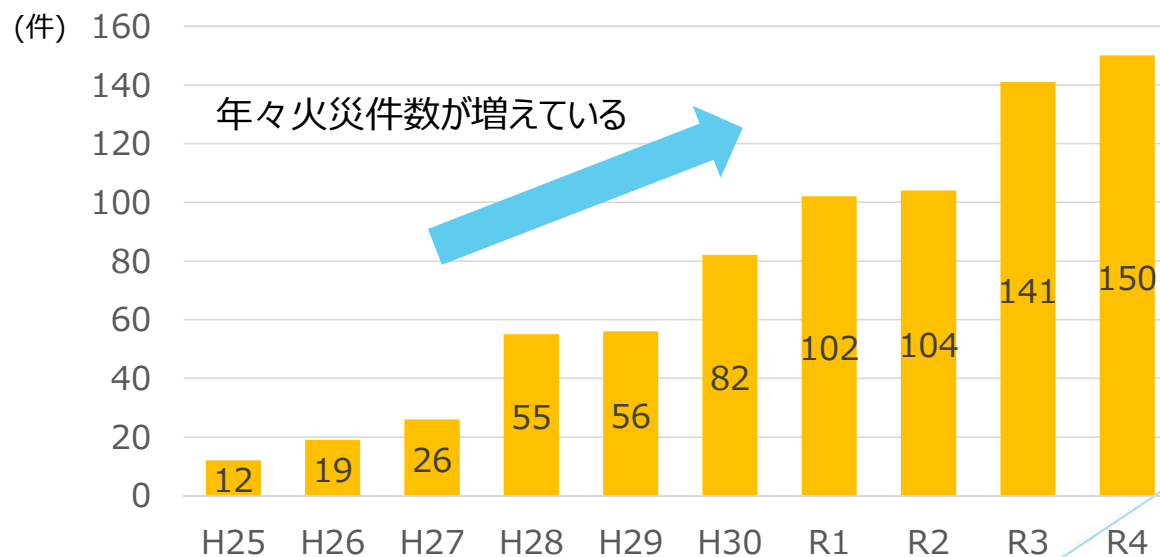


リチウムイオン電池について

リチウムイオン電池の危険性



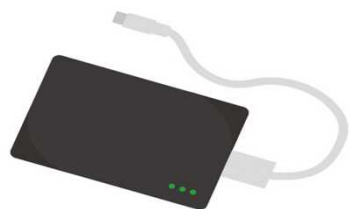
- 充電して繰り返し使えるリチウムイオン電池は、パソコンやモバイルバッテリーなど幅広い製品に使用されています。
- 危険物に該当する液体を電池内に含むものもあり、強い衝撃を与えたり、無理に分解したりすると火災になることがあります。



リチウムイオン電池関連による火災の年別発生状況

※ごみ回収中のごみ収集車から出火した火災、
ごみ処理関連施設から出火した火災を除く。

どんな製品に使われているの？



モバイルバッテリー



加熱式たばこ・電子たばこ



小型扇風機



ワイヤレスイヤホン



デジカメラや
ビデオカメラのバッテリー



コードレス掃除機



ヘッドライト

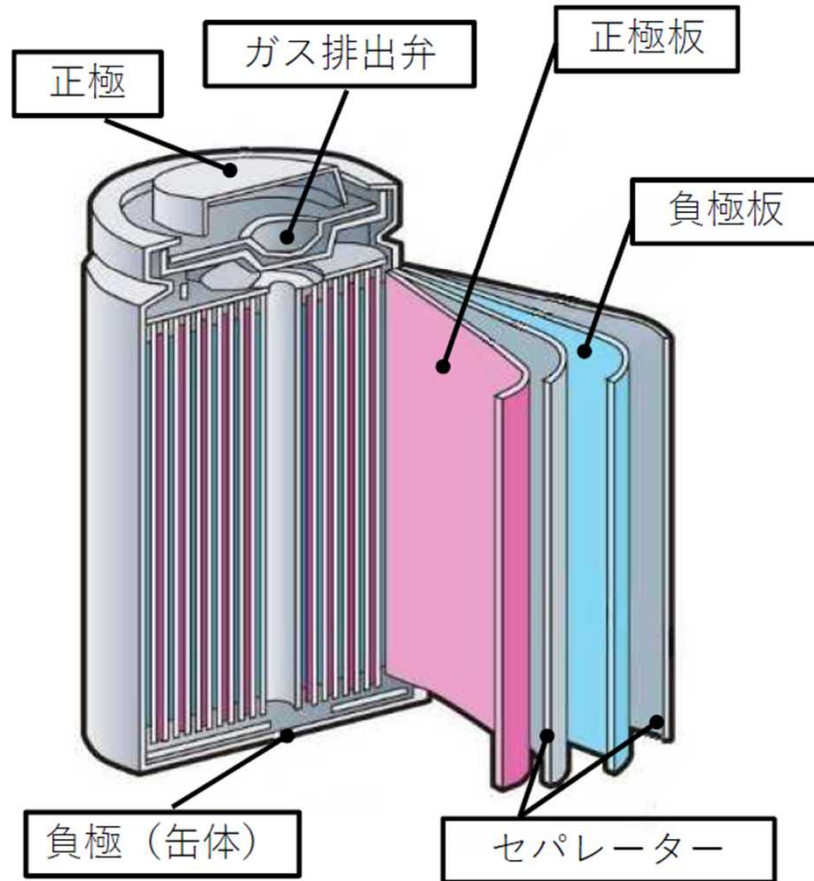


空調服・電熱服



電動工具

内側はどうなっているの？



リチウムイオンバッテリーの構造

- 正極板
アルミ箔にコバルト酸リチウム等を塗布したもの
- 負極板
銅箔に炭素を塗布したもの
- セパレーター
PPやPE製の絶縁膜
- ガス排出弁
熱暴走等の不具合時にバッテリー内で発生したガスを排出する弁

リチウムイオン電池の危険性



- 落とす、ぶつける、改造する！
- 品質が悪い（ネットショップで安価）！
⇒絶縁材が劣化し、プラスとマイナスが触れる短絡・ショート発生！
⇒過電流、過熱、電解液揮発、ガス噴出、スパーク等で引火・・・



! このようなときは **危険!**

CHECK!

- 熱のこもりやすい場所で使用している。
- 膨らみ、変形している。
- 過去に落下させたことがある。
- 充電中や使用中に発熱することがある。
- 充電できないなどの不具合がある。

リチウムイオン電池の火災事例



事故事例 ズボンのポケットに入れたスマートフォンが破損し出火した火災

男性が、階段で足を滑らせてしりもちをついた際、「シュー」という音とともにズボンの後ろポケット辺りが熱くなったため、ポケットに入れていたスマートフォンを取り出すと炎が出ていました。



焼損した衣類と
スマートフォン



焼損したスマートフォン

リチウムイオン電池の火災事例



事件事例 不燃ごみに混ぜられたリチウムイオン電池による火災

不燃ごみに紛れていたリチウムイオン電池が、ごみ処理施設で破砕されて発熱、発火し、周囲のプラスチックごみに着火しました。

施設職員がベルトコンベヤの内部で延焼しているのを発見し、屋内消火栓設備で初期消火を行いました。



施設職員による初期消火



火源となったリチウムイオン電池

リチウムイオン電池の事故を防ぐために



- ① 落とさない、ぶつけない、改造しない、濡らさない！
- ② 購入時に付属しているメーカー指定の充電器、ケーブルを使用！
- ③ 膨張・異音・異臭、充電中に熱くなる、最後まで充電できない等、異常のあるもの使用しない！
- ④ ネットショップ等で出処不明・安価なものは購入しない！
- ⑤ 可燃ごみ・不燃ごみに混ぜず、各自治体のルールに従って廃棄しましょう！

購入する際は、製品が安全性を満たしていることを示すマークが付いているものを選びましょう。



国の定める安全基準の検査に合格した電気製品に表示されます。

モバイルバッテリーは、2019年2月からこのマークが表示された製品でなければ販売禁止となりました。



MCPC（モバイルコンピューティング推進コンソーシアム）は、モバイル機器の安全性向上に取り組む団体で、評価試験に合格した製品にはこのマークが表示されています。